【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	京都府

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	宇治市立菟道小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	１	１３	２３
児童数	５９	６２	５１	４５	５６	５７	４	３３４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

一人一人の児童へのきめ細かな指導による学力の充実・向上をめざして

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科
・過去９年間ティーム・ティーチングによる算数科の研究実績があること
・基礎学力の定着をめざした補習指導の取組の実績があること
・京都府小学校基礎学力診断テスト結果から、算数科では、理解や習熟の程度の差が学年が進むにつれて大きくなるという課題があること
・算数科は、きめ細かな指導により、「わかる・できる」が客観的に明らかになる教科であること

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	○　テーマ 「一人一人の児童へのきめ細かな指導による学力の充実・向上をめざして」 ○　研究の見通し（仮説） ①　児童一人一人の基礎・基本の徹底による学力の充実・向上を図るには、児童の興味・関心や理解・習熟の程度に応じた課題別の少人数グループ分けによる個に応じたきめ細かな指導を行うなど、指導方法や指導体制の工夫改善を推進することが必要である。 ②　児童一人一人が関心・意欲を持ち主体的に学習に取り組むには、活動を多く取り入れた授業や教育機器を活用した授業、指導に生かす評価を取り入れた授業の工夫改善が必要である。 ○　研究の内容・方法 ①　研究内容 ・基礎・基本の定着を図るとともに、習熟の程度に応じた指導を一層進めるための、補充教材・発展的な教材の研究開発 ・個々の児童の課題や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法や指導体制の工夫改善の研究 ・指導(授業)の改善に結びつく評価の研究

	②　研究方法 １学期 ・算数科についての学習意識と学力実態の調査と分析 ・授業研究会を通した指導方法の研究(少人数指導 他) ・先進的研究の視察(基礎理論面) ・指導主事や講師による理論研究 ２学期 ・授業研究会を通した指導方法の研究(習熟の程度や課題に応じた指導) ・学力の定着、補充・発展を図る教材の開発 ・より有効な指導体制実現のための指導人員配置及び週程・時程の工夫 ・先進的研究の視察(授業実践面) ３学期 ・授業研究会を通した指導方法の研究(算数的活動を取り入れた授業) ・１年次研究実践の総括と次年度に向けての改善点の整理及び研究紀要の作成

平成15年度	○　テーマ 「一人一人の児童へのきめ細かな指導による学力の充実・向上をめざして」 ○　研究の見通し（仮説） ①　児童一人一人の基礎・基本の徹底による学力の充実・向上を図るには、児童の興味・関心や理解・習熟の程度に応じた課題別の少人数グループ分けによる個に応じたきめ細かな指導を行うなど、指導方法や指導体制の工夫改善を推進することが必要である。 ②　児童一人一人が関心・意欲を持ち主体的に学習に取り組むには、算数的活動を多く取り入れた授業や教育機器を活用した授業、指導に生かす評価を取り入れた授業の工夫改善が必要である。 ○　研究の内容・方法 ①　研究内容 ・基礎・基本の定着を図るとともに、習熟の程度に応じた指導を一層進めるための、補充教材・発展的な教材の研究開発 ・個々の児童の課題や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法や指導体制の工夫改善の研究 ・指導(授業)の改善に結びつく評価の研究 ②　研究方法 １学期 ・算数科についての学習意識と学力実態の調査と分析 ・授業研究会を通した指導方法の研究(コンピュータを活用した授業) ・学力の定着、補充・発展を図る教材の開発 ・先進的研究の視察(授業実践面) ・指導主事や講師による理論研究 ２学期 ・授業研究会を通した指導方法の研究(習熟の程度や課題に応じた指導) ・先進的研究の視察(授業実践面) ３学期 ・授業研究会を通した指導方法の研究(評価を生かした指導の工夫) ・２年次研究実践の総括と次年度に向けての改善点の整理及び研究紀要の作成

平成16年度	○　テーマ 「一人一人の児童へのきめ細かな指導による学力の充実・向上をめざして」 ○　研究の見通し（仮説） ①　児童一人一人の基礎・基本の徹底による学力の充実・向上を図るには、児童の興味・関心や理解・習熟の程度に応じた課題別の少人数グループ分けによる個に応じたきめ細かな指導を行うなど、指導方法や指導体制の工夫改善を推進することが必要である。 ②　児童一人一人が関心・意欲を持ち主体的に学習に取り組むには、活動を多く取り入れた授業や教育機器を活用した授業、指導に生かす評価を取り入れた授業の工夫改善が必要である。 ○　研究の内容・方法 ①　研究内容 ・基礎・基本の定着を図るとともに、習熟の程度に応じた指導を一層進めるための、補充教材・発展的な教材の研究開発 ・個々の児童の課題や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法や指導体制の工夫改善の研究 ・指導(授業)の改善に結びつく評価の研究 ②　研究方法 １学期 ・算数科についての学習意識と学力実態の調査と分析 ・授業研究会を通した指導方法の研究(評価を生かした指導の工夫) ・学力の定着、補充、発展を図る教材の開発 ・先進的研究の視察(授業実践面) ２学期 ・授業研究会を通した指導方法の研究(習熟の程度や課題に応じた指導) ・先進的研究の視察(授業実践面) ３学期 ・３年次研究実践の総括と研究紀要の作成

＊　平成１５年度からの新規校については、平成１５、１６年度の計画について記入すること

(3) 研究推進体制

重点研究推進部 ―― 授業(評価)研究部 ［各学年１名、教育方法加配２名、児童支援加配１名　計９名］

［校長、教頭、教務主任、教育方法加配２名、中学年ブロック代表１名、高学年ブロック代表１名　計７名］

・指定研究に係る企画立案

・授業の理論と実践の研究
・評価の研究と評価規準の作成
・発展的な学習の研究など

― 渉　外　部 ［２名］

・研修計画と先進校視察計画の立案
・保護者・地域への情報発信、広報活動
・学校視察の対応など

― 実態分析部 ［３名］

・児童の学力実態調査及び分析など

環　境　部 ［３名］
・校内環境づくり
・少人数指導教室の整備計画など

情　報　部 ［２名］
・ホームページの作成及び更新
・情報機器の活用計画など

Ⅲ　平成15年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

１　均等割少人数指導や習熟度別少人数指導等、指導方法の研究開発について

(1) 中・高学年では習熟度別少人数指導を、低学年では均等割少人数指導を取り入れた指導方法の改善の研究が進んだ。

・児童の興味や関心のニーズに応えられる授業の提供ができた。そのため、自分に合ったコースの中で意欲的な学習態度が見られ、どの児童も発表の機会が増えるなど積極的な学習態度が見られた。また、授業の終わりの自己評価カードに「よくわかった、楽しかった。」という感想が増えた。

・理解や習熟の程度に応じた授業では、各コースのめあてが設定しやすく、場面場面で同じようなペースで授業が進んだ。また、一人一人の理解の様子が把握しやすく児童のつまずきなどに教師が気づき、すぐにアドバイスができるなど、個に応じた授業の提供ができた。

(2) 問題解決型の授業を基本のスタイルとして取り入れ、自力解決や比較検証の場面を大切にした授業の研究が進んだ。

・問題に対して前向きに取り組もうとする態度や、友達の意見を聞き自分の考えと対比させ、よりよい考えを見い出そうとする態度が多く見られるようになった。

２　教材、教具の開発について

(1) 個に応じた学習の推進にあたり、コース別の教材や補充的教材・発展的教材についての研究が進んだ。

・学習指導要領に示す内容の理解をより深める学習や、さらに進んだ内容の学習を発展的な学習ととらえ実践した。

一例　３年「大きな数」→１億の位の数
　　４年「わり算（２）」→(４位数)÷(２位数)
　　５年「面積」→台形の求積法とその問題
　　「四角形」→六～八角形の内角の和
　　「分数」→帯分数を含む分数の加減
　　６年「立体」→円柱や角錐の展開図

(2) 朝学習(算数タイム)・全校補習(おさらい会)で使用する補充的教材を作成し、活用することができた。

・補充的教材を日常的に活用しやすいように、校内環境整備を進めることができた。

３　評価規準や評価方法等についての研究

(1) 指導と評価の一体化の取組を進めることができた。

・１時間１時間ごとの指導内容と評価内容を明らかにするとともに、十分満足できる状況や理解が不十分な児童への手だてを明らかにした「評価規準表」を作成した。
・実際の授業の中では、主たる評価の観点を明らかにするとともに、具体的な評価場面や評価方法について、「評価規準表」に基づいて実践検証できた。

４　その他
(1) 児童の実態把握や保護者の意識調査を進めることができた。
・京都府小学校基礎学力診断テスト結果から、６学年の経年変化についてまとめた。４学年時に京都府の平均との差が＋２であったが、６学年時にはその差が＋９となり、２年間の取組の成果と考えている。
・全国標準診断的学力検査結果から、各学年の経年変化についてまとめた。全体的な傾向として、どの学年も５段階評定で１ランクアップしたような形状を示した。全体的に児童の学力が高まったと考えている。
・保護者の多くが、習熟度別少人数指導による算数科の授業を理解し、児童が当該学習の内容をきちんと理解して､次の単元や学年に進むことを期待している。
(2) 算数科の授業時間外での反復練習やトレーニングの取組が進んだ。
・毎週火・木曜日に設定した朝学習(算数タイム－１０分間)で、既習内容の基礎・基本の徹底を図る取組(反復練習による習熟を図る取組)を進めた。
・毎週水曜日の全校補習(おさらい会－放課後３０分間)で、基礎的な学習内容の定着(現在学習している内容の補充的な学習)を図る取組を進めた。
・指導方法工夫加配や児童支援加配、教務主任が加わり、習熟度別少人数学習を進めて、個に応じた補充学習を進めた。
(3) 少人数指導など個に応じた指導の取組について、学校だよりや少人数指導だよりを通じて保護者に知らせることができた。
(4) ホームページを開設し、本校の研究内容の一端を知らせることができた。
－ホームページアドレス　http://www.uji.ed.jp/todou-es/index.html－

２．今後の課題

１　習熟度別をはじめとする少人数指導等、指導方法の研究開発について
(1) 興味・関心別少人数指導を、どのような内容や方法で行うか研究すること
(2) 理解や習熟の程度に応じたグループ編成をする場合、どのような方法で行うのかさらに研究を深めること
・理解や習熟の程度に適切に応じたグループ分けをしたい場合、名称やその固定化の是非について、さらに実践を通して検証する。
・理解や習熟の程度に応じたグループ編成をした場合のメリットを生かした授業展開について、さらに研究を深める。
・習熟度別少人数指導によっても、なお理解の進みにくい児童への手だてについてさらに研究を進める。

２　教材、教具の開発について
(1) それぞれの教材において、多くの児童がつまずきやすい内容や段階を具体的に洗い出し、それを焦点化した練習教材(練習問題)を作成し、活用すること
(2) 理解や習熟の程度に応じたグループ編成の発展グループにおける、「発展的教材」｢発展的学習｣の一層の研究開発を行うこと

３　評価規準や評価方法等についての研究
(1) 「評価規準表」の充実と、指導の工夫改善に評価をどう生かしていくのかさら

に研究を深めること

4　その他
(1) 読解力をつけるための朝読書などの取組をさらに充実させること
(2) 本校の授業改善に係る取組の広報活動をさらに充実させること
(3) 少人数指導をさらに進めるために、その指導体制の確立、指導者同士のきめ細かな打ち合わせのための時間や機会の確保、教材等の管理スペースの確保を図ること
(4) 引き続き経年的な学力実態調査の実施、分析、活用を進め、児童の学力向上に生かすこと（全校、学年ごと、特徴的な児童についてなど）

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

1　京都府小学校基礎学力診断テスト(４年・６年)の実施と結果の分析
(1) 調査のねらいと内容
・本校の第４学年及び第６学年の児童が身に付けるべき基礎的な学力のうち国語科、算数科について、どの程度習得されているか等を見極める。
・第６学年の児童については、２年前に実施した本テストの結果と比較し、その変化について分析する。
・分析により、本校児童の課題等についてまとめ、日々の授業改善に生かす。
(2) 調査の時期
・テストは、平成１５年４月１５日(火)、１６日(水)に実施した。
・分析は、テスト結果が送られた６月から８月にかけて行った。

2　全国標準診断的学力検査(２年～６年)の実施と結果の分析
(1) 調査のねらいと内容
・本校の第２学年から第６学年の児童が身に付けるべき基礎的な学力のうち算数科について、どの程度習得されているか等を見極める。
・第３学年から第６学年の児童については､昨年実施した本検査の結果と比較し、その変化について分析する。
・分析により、本校児童の課題等についてまとめ、日々の授業改善に生かす。
(2) 調査の時期
・検査は、平成１５年６月１７日(火)～１９日(木)に実施した。
・分析は、検査結果が送られた７月から８月にかけて行った。

3　児童の実態アンケート調査
(1) 調査のねらいと内容
・全校児童の学習（特に、算数科）に対する意識や実態、保護者の本校教育に対する意識について把握する。
・昨年実施した本調査の結果と比較し、その変化について分析する。
・分析により、本校児童の課題等についてまとめ、日々の授業改善に生かす。
(2) 調査の時期
・調査は、平成１５年９月２４日(水)～１０月１日(水)に実施した。
・分析は、１０月に行った。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1　算数科教育研究発表会の開催

(1) 開催日時

・平成１５年１１月１３日(木)　午後１時４５分～午後４時３０分

(2) 開催場所

・宇治市立菟道小学校

(3) 案内先

・京都府内各小学校、京都府山城教育局管内各中学校

・各教育局、各市町村教育委員会

(4) 目的

・授業公開と研究発表により本校の２年間の研究成果を発表し、習熟度別少人数指導など研究した内容について普及する。

(5) 研究冊子の発刊

・研究発表会にあわせて、２年間の研究の成果を冊子「研究の概要」にまとめた。

2　各研究会への参加による普及

(1) 宇治市「学力充実」研究指定校連絡協議会での発表

・平成１６年1月２７日(火)

・宇治市生涯学習センター

・宇治市各小中学校教諭を対象に実施

・本校の研究の成果を発表し、研究した内容について普及する。

(2) 他校の研究会での発表

・城陽市立小学校の校内研究会で、理解や習熟の程度に応じた少人数指導について、本校の取組を中心にして報告を行った。

・平成１５年８月２５日(月)

(3) フロンティアティーチャーによる研究会等での報告

・京都府学力充実推進協議会、指導方法の改善に関する研究協議会、山城地区学力向上推進会議、宇治市学力向上研究協議会、宇治市小学校教育研究会などの研究会で、本校の取組について報告を行った。

3　ホームページの開設

(1) 開設時期

・平成15年６月

(2) 内容

・本校の学校紹介

・本校の研究内容の概要

・授業実践についての各資料など

・授業研究ごとに更新をしその内容を発信

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　■１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　□Ｔ．Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　■算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無